

## 電車の中の巡視と机間巡視

一 徹国語人

読者の方から机間巡視のやり方について質問をいただきました。わたしが思い起こすのは、電車内で見える光景です。

電車内で化粧をするギャルたちにびっくりしたのは、ひと昔前のこと。最近では、飲食をする人もいます。パンや饅頭ならまだしも、焼きそばを食べる人も現れました。電車の中のような公共的な役割をもっている場所とそうでない場所との区別をしない人が、年齢に関係なく多くなってきたのではないのでしょうか。

日本人が大事にしてきた「恥を知る文化」の意識が、希薄になりつつあるのかもしれない。

さて、標題の「机間巡視」のことです。先生方は、どんなことを考えながら、子どもたちの机の間を巡るのでしょうか。

本時の学習目標が全員で確認されれば、個々に作業学習（音読・書きだし・書き込み・文図化・感想文や説明

文書き・小見出し作り・相手との話し合いや読み合わせなど）が始まります。先生方の多くは、黒板整理などもそこそこに机間巡視を始めます。

一 巡目は、さんの所で立ち止まり、支援をする。  
二 巡目のときは、中以下の子たちの内容チェック。  
三 巡目は、対比させたい内容の子の発表代表者決め。  
大まかな巡視の流れを作業内容に合わせてもっている  
と、注意・助言・支援・評価認定の方法とその内容を個々の子どもに力量に合わせて設定することができます。

よく見かける巡視は、どれくらいの人数の子どもたちの作業学習がどれくらい進んでいるかの確認をするためのものです。もう少し時間を延長したほうがよいか、作業内容の質や量を下げたほうがいいのかどっかの判断材料を集めるためといえるでしょう。

ここでは、個々の子どもでの立ち止まり指導はありません。もちろん、やり方などの質問をしてきた子へ

の対応はあります。それは、車内で焼きそばを食べるギャルが車掌さんに乗換駅を尋ねたとき、わかりやすく教えてもらうのと同じように見えます。しかし、学習者は乗客とはその本質が違つのですから、車掌型の机間巡視では学習効果はあまり上がらないと思います。そのギャルと車掌の間には、指導はないように映るのです。わたしが考える指導の方法と内容の例をいくつか挙げてみます。

注意する 姿勢・不必要な学習用具の点検・机上の学習具の配置・鉛筆の持ち方など。

指導する ノートの使い方・書き方・辞書の引き方・参考資料の見方・音読の音量・口の開け方・速さ・句読点の間の取り方・話し合い方など。

支援する 課題のとらえ方・着眼点の幅・核となる言語とその構成要素・以前の学習事例・分担範囲の再確認・本日の学習目標に合致しているか・別の方法の模索など。

評価認定 評価チェック押印・後で発表してもらつた伝える・肩をたたいたり頭をなでたりする・顔をみて「よくまとまっているね。」と笑顔など。

だれを対象としてどんな内容で机の間を巡るか、一回一回よく考えたいものです。これが改善されたら、子どもたちからの信頼がより飛躍的に増すでしょう。

一 徹国語人にご意見・ご質問がある方は、広報課までお便りをお寄せください。一 徹国語人ご本人がお返事をいたします。お便りは、誌上にて紹介させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

FAX 03-3493-5483

E mail : koho@mitsumura-tosho.co.jp